

2017年（平成29年） 10月13日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

9/28~10/4のNYMEX・WTIは、49.98~51.67ドルの範囲でやや軟化した。

10月5日は、ロシアのプーチン大統領、ノバク・エネルギー相が相次いで、協調減産延長の可能性を発言、サウジのサルマン国王がロシア訪問中でもあり、需給均衡への期待感から、4営業日振りに反発した。11月限の終値は前日比0.81ドル高の50.79ドルだった。

週末6日は、前日の反動で、利益確定売りやドル高・ユーロ安進行に伴う割高感による売りが優勢で、大幅反落した。同日発表のペーカークヒューズ社による米国内石油掘削リグ稼働数は748基（前週比2基減）と2週振りに減少したが、取引には大きな影響はなかった。11月限の終値は前日比1.50ドル安の49.29ドルだった。

週明け9日は、OPECのバーキンド事務局長が、OPECは需給均衡回復のため、2018年に「特別な措置」を講じる可能性があり、11月30日の総会ではより多くの非加盟産油国が減産に参加する可能性があると言ったことから、反発した。ハリケーン「ネート」の影響で操業停止していた米国南部の製油所が操業再開されたことも相場を後押しした。11月限の終値は前週末比0.29ドル高の49.58ドルだった。

10日は、サウジのエネルギー省報道官が11月の原油輸出量を日量56万バレル削減すると発言、バーキンドOPEC事務局長もインドで講演し、協調減産の価格下支え効果と減産参加国の拡大可能性を強調したことから、大幅反発した。11月限の終値は前日比1.34ドル高の50.92ドルだった。

11日は、OPEC月報の強弱双方の報告内容に売り買いが交錯したが、需給均衡への期待が優勢で、3営業日続伸し

た。11月限の終値は前日比0.38ドル高の51.30ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（11月渡し）は、前週54.20~55.20ドルの範囲で推移した。10月5日54.20ドル、6日55.10ドル、10日54.00ドル、11日54.80ドルで推移した。

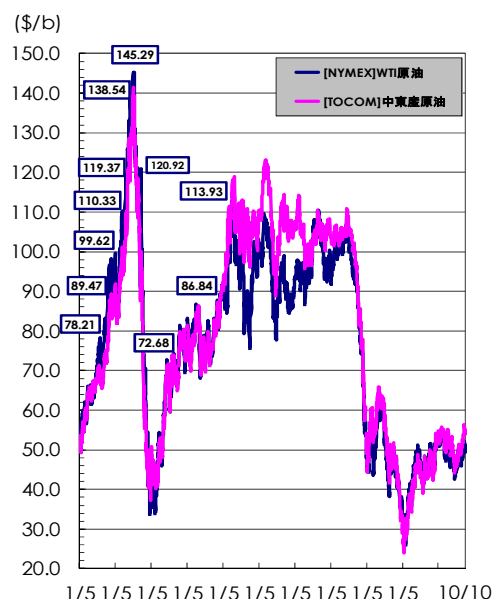
為替は、前週112.60~112.97円の範囲で推移した。10月5日112.81円、6日は112.90円、10日112.76円、11日112.31円で推移した。

財務省が6日発表した貿易統計速報による9月中旬の原油輸入平均CIF価格は、35,417円/klとなり、前旬を549円上回った。ドル建てでは51.46ドルで前旬比0.84ドル高。為替レートは1ドル/109.41円。

主要元売会社の10月第3週に適用する卸価格は、全社ガソリン・軽油が1.0円の値下げ、灯油が据え置きとなった。原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、10月10日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.2円の値上がり、軽油は同1.1円の値上がり、灯油は同0.7円の値上がりだった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油は3週連続の値上がりだった。この週（10月第2週）の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、全社ガソリン・軽油が1.0円、灯油が1.5円の値上がりとなった。

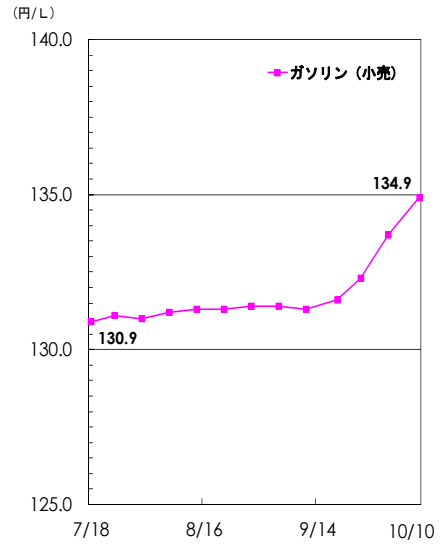
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/1 ~ 10/7	3,282 ▼ -149	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	83.8 ▼ -3.8	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	10/7	13,447 ▲ 676	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/ bbl)	10/10	53.51 ▼ -1.21	▲ 3.4
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	10/9	49.58 ▼ -1.00	▼ -1.8
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	9月中旬	51.46 ▲ 0.84	▲ 5.94
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	35,417 ▲ 549	▲ 6,247
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.41 ▲ 0.12	▼ -7.54
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/10	113.76 ▲ 0.02	▼ -8.81



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/1 ~ 10/7	1,008 ▲ 1	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,003 ▲ 187	▲ -	
	輸出	"	47 ▼ -168	▲ -	
	在庫	10/7	1,638 ▼ -43	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/3 ~ 10/9	54.3 ▲ 1.2	▲ 11.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/3 ~ 10/9	53.3 ▼ -0.6	▲ 10.0
		(TOCOM/中部)	10/6	52.7 ▲ 0.1	▲ 9.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/10	134.9 ▲ 1.2	▲ 12.1	

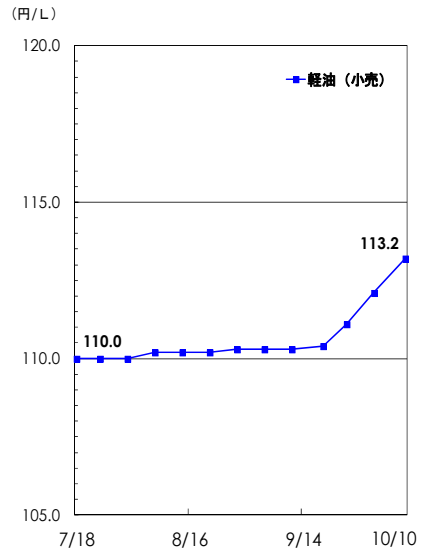
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

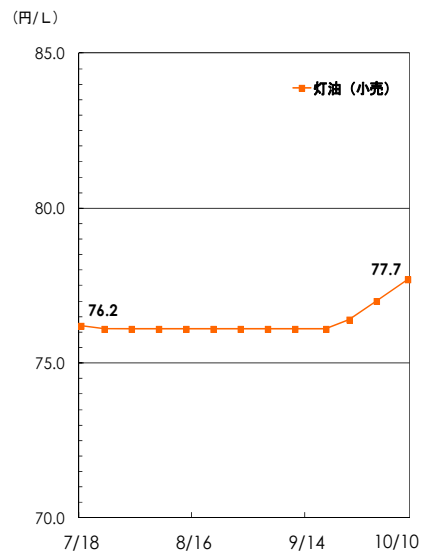
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/1 ~ 10/7	795 ▼ -69	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	651 ▲ 48	▼ -	
	輸出	"	51 ▼ -418	▼ -	
	在庫	10/7	1,409 ▲ 91	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/3 ~ 10/9	53.0 ▲ 1.5	▲ 13.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/3 ~ 10/9	50.0 ▲ 0.4	▲ 9.0
		(TOCOM/中部)	10/6	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/10	113.2 ▲ 1.1	▲ 10.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/1 ~ 10/7	307 ▲ 26	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	109 ▼ -222	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	10/7	2,594 ▲ 198	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/3 ~ 10/9	54.7 ▲ 1.8	▲ 16.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/3 ~ 10/9	54.1 ▲ 0.1	▲ 11.0
		(TOCOM/中部)	10/6	54.6 ▲ 0.8	▲ 12.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/10	77.7 ▲ 0.7	▲ 14.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

10月11日のNYMEX市場WTI原油は、石油輸出国機構(OPEC)の10月月報で、9月生産量が前月比日量9万バレル増加の同3,275万バレルと報告、4カ月連続で生産目標の同3,250万バレルを上回った一方で、2018年の世界需要見通しを上方修正、対OPEC原油需要予想を同23万バレル引き上げ、同3,306万バレルと予測した。強弱双方の内容に、売り買い交錯したが、後者にに基づく需給均衡への期待感が優勢な形で、3営業日続伸した。11月限の終値は、前日比0.38ドル高の51.30ドル、12月限の終値は前日比0.37ドル高の51.60ドルだった。市場の関心は、休日(コロンブス

デー)の関係で1日遅れとなった11日夕刻と12日午前の米国官民の在庫週報の動向に集まっている。

EIAによると、10月9日時点のガソリンの小売価格は前週比6.1セント値下がり(1ガロン2.504ドル(75.3円/ℓ))となった。ディーゼルは前週比1.6セント値下がり(2.776ドル(83.4円/ℓ))。ガソリンは4週連続の値下がり、ディーゼルは2週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、10月1日~10月7日に休止したトッパー能力は28.9万バレル/日で、前週に対して18.9万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は328.2万klと、前週に比べ14.9万kl減少。前年に対しては13.5万klの増加。トッパー稼働率は83.8%と前週に対して3.8ポイントの減少、前年に対しては9.8ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.1%増、ジェット/38.3%減、灯油/9.3%増、軽油/8.0%減、A重油/7.2%減、C重油/33.5%減。今週のC重油の輸入は6.4万kl(前週比5.8万kl増)。軽油の輸出は5.1万kl(前週比41.8万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では、ガソリンのみが増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンの出荷は100.3万kl(対前週23.0%増)と2週振りで前週比、前年比で増加となり、5週振りで100万klを超えた。

ジェット5.9万kl(対前週45.7%減)、灯油10.9万kl(対前週67.2%減)、軽油65.1万kl(対前週8.0%増)、A重油19.8万kl(対前週5.0%減)、C重油21.1万kl(対前週30.3%増)。

(単位:千KL)

	今週 (10/1 ~ 10/7)	前週 (9/24 ~ 9/30)	前週比	
ガソリン	1,003	816	▲ 187	(23%)
ジェット燃料	59	108	▼ -49	(-45%)
灯油	109	331	▼ -222	(-67%)
軽油	651	603	▲ 48	(8%)
A重油	198	208	▼ -10	(-5%)
C重油	211	162	▲ 49	(30%)
合計	2,231	2,228	▲ 3	(0%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月7日時点の在庫は、ガソリン、A重油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ガソリンのみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは163.8万kl、前週差4.3万kl減。前年に対しては12.9万kl多い。

灯油は259.4万kl、前週差19.8万kl増。前年に対しては28.3万kl少ない。

軽油は140.9万kl、前週差9.1万kl増。前年に対しては6.4万kl少ない。

A重油は71.4万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては0.8万kl少ない。

C重油は201.1万kl、前週差2.0万kl減。前年に対しては1.5万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (10/7)	前週 (9/30)	前週比	
ガソリン	1,638	1,681	▼ -43	(-3%)
ジェット燃料	938	933	▲ 5	(1%)
灯油	2,594	2,396	▲ 198	(8%)
軽油	1,409	1,318	▲ 91	(7%)
A重油	714	724	▼ -10	(-1%)
C重油	2,011	2,031	▼ -20	(-1%)
合計	9,304	9,083	▲ 221	(2.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月3日から9日までの原油コストは、原油価格は値下がりし、為替レートの円安が加わり、原油コストは値下がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン108円台でほぼ横ばい、軽油52～53円台で堅調、灯油54円台で堅調に推移した。

海上スポット価格は、ガソリン109～110円台で堅調、軽油53～55円台で堅調、灯油53～55円台で堅調に推移した。

先物価格は、ガソリン106～107円台で堅調、軽油50円台で横ばい、灯油53～55円台で堅調に推移した。元売の卸価格は、ガソリン・軽油が1.0円の値下げ、灯油が据え置きだった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月3日から10月9日の原油コストは値下がりしたが、製品スポット市況は、先物ガソリンが値下がりした以外は、全油種で値上りした。

10月第3週(10月12日～18日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(10月3日～9日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.2円の値上がり、灯油は1.8円の値上がり、軽油は1.5円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.2円の値上がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は0.1円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.6円の値下がり、灯油は0.1円の値上げ、軽油が0.4円の値上がりだった。原油価格は値下がりし、為替はほぼ横ばいで、原油コストは値下がりだった。

10月第3週の大手元売の卸価格は、据え置きから1.0円の値下げだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (10/3～10/9)	前週 (9/26～10/2)	前週比
スポット 価格	レギュラー	54.3	53.1	▲ 1.2
	灯油	54.7	52.9	▲ 1.8
	軽油	53.0	51.5	▲ 1.5
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (10/3～10/9)	前週 (9/26～10/2)	前週比
先物 価格	レギュラー	53.3	53.9	▼ -0.6
	灯油	54.1	54.0	▲ 0.1
	軽油	50.0	49.6	▲ 0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/3～10/9実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.2	▼ -0.6	▲ 0.3
灯油	▲ 1.8	▲ 0.1	▲ 0.9
軽油	▲ 1.5	▲ 0.4	▲ 0.9
A重油	▲ 1.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.2円高の134.9円を付け本年最高値を記録、軽油は同1.1円高の113.2円、灯油は同0.7円高の77.7円だった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油は3週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上りは47全都道府県で、横ばいと値下がりのはなかった。、全国最安値は埼玉県(130.2円(同0.8円高)、次が千葉県(131.50円(同0.6円高)、最高値は沖縄県の144.3円(同0.7円高)だった。最も値上がりしたのは、3.7円高の滋賀県(134.7円)だった。

原油コストは値上がりし、4週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値下がりし、為替レートはほ

ぼ横ばいで、原油コストは値下がりした。元売会社の卸価格は、ガソリンが1.0円の値下げ、灯油が据え置きとなった。次週(10月16日)のガソリンの小売価格は小幅な値下がり、灯油は横ばいが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (10/10)	前週 (10/2)	前週比	直近高値
小売 価格	レギュラー	134.9	133.7	▲ 1.2	08/8/4 185.1
	灯油	77.7	77.0	▲ 0.7	08/8/11 132.1
	軽油	113.2	112.1	▲ 1.1	08/8/4 167.4

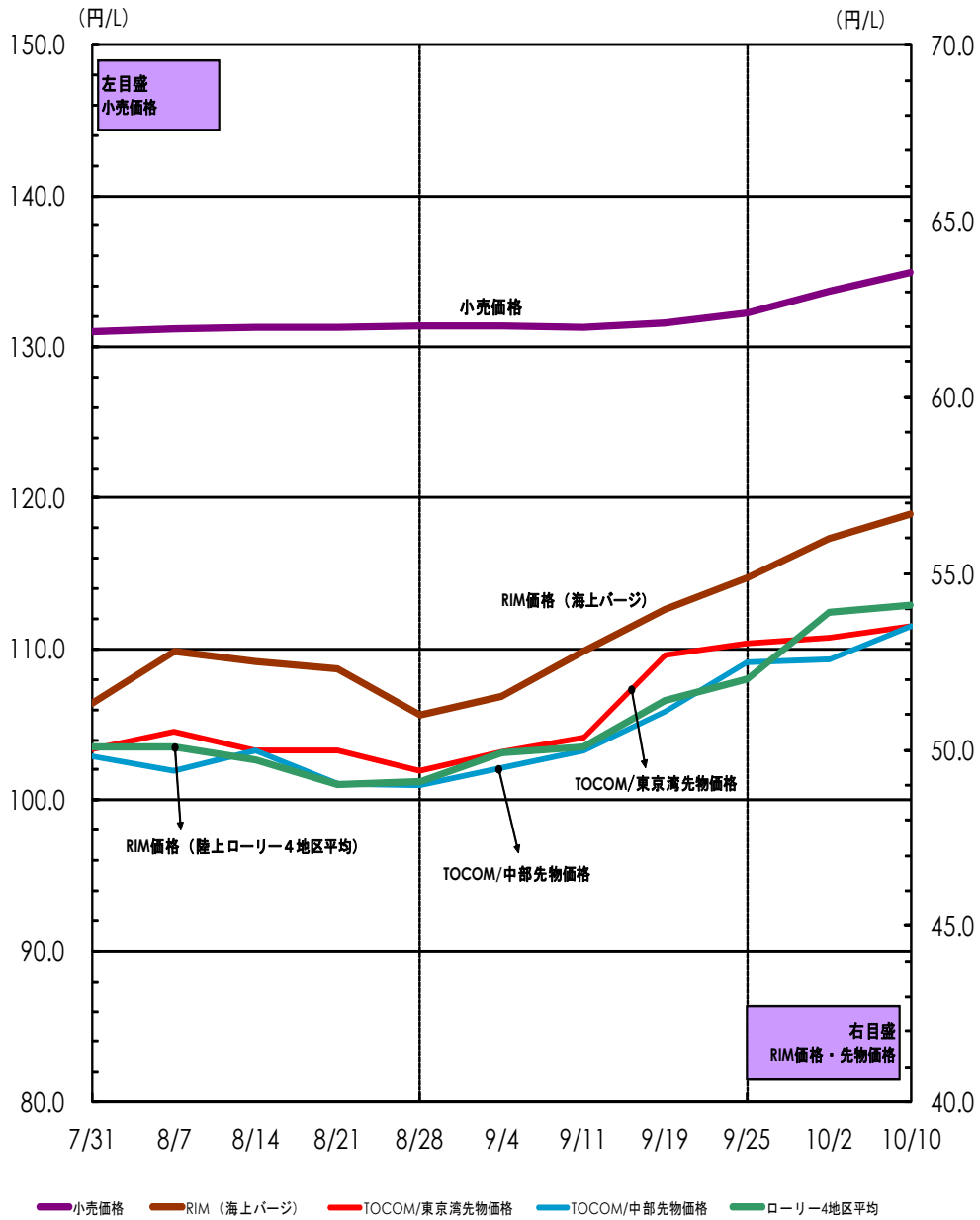
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/7/31 ~ 2017/10/10)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第27号)の公表は、10/20(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年3月末現在)は、7月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。